

埼玉大学との共同研究

保育職を対象としたリカレント教育の 内容及び方法に関する実践的検討

森田満理子 埼玉県立大学 保健医療福祉学部 社会福祉子ども学科
福祉子ども学専攻・准教授

小谷宜路 埼玉大学 教育学部附属こどもの育ち応援センター・副センター長
埼玉大学 教育学部附属幼稚園・副園長

関由起子 埼玉大学 教育学部附属こどもの育ち応援センター・センター長
埼玉大学 教育学部 養護教諭養成課程 学校保健学講座, 教育学研究科・教授

小田倉泉 埼玉大学 教育学部 学校教育養成課程 乳幼児教育講座, 教育学研究科・教授
寺蘭さおり 埼玉大学 教育学部 学校教育養成課程 乳幼児教育講座, 教育学研究科・准教授



センターの概要

目的

こどもの育ち応援センター ホームページ「センターの概要」より
目的・事業欄を切り抜き抜粋

「こどもの育ち応援センター」は、乳幼児教育及び幼稚園教育の基本理念に基づき、埼玉大学内外の関係諸機関との連携のもとに、乳幼児の育ちに関わる保護者の方、保育・教育者に対する情報提供及び相談支援を行い、乳幼児のウェルビーイングの保障に寄与していきます。

事業



乳幼児とその保護者の方を対象とした事業

- 子育てに関する情報提供（子育ておはなし会、動画の配信）
- 子育てに関する相談支援（子育ておしゃべり会）



園や学校の先生方を対象とした事業

- 情報提供と研修（公開保育研究会、健康医療研修会、研修動画の配信）

想定する共同研究の意義

①多様な者が交わることによる効果的な研修・仲間作りの実現

- ・参加保育者：幼稚園，保育所，認定こども園等，施設形態の違いを超えて交わる。
出身学部の違いを超えて交わる。
園文化の違いを超えて交わる。
- ・研究者：所属機関での保育者養成・教育経験，分野（教育学部，保健医療福祉学部）
や自分の専門分野を超えて交わる。

②両大学の学部学生の参加も可能とし，養成段階の教育の在り方を広げる。

- ### ③実際の保育職からの声を考察することを通して，養成段階から現職教育(リカレント教育)までの各段階の課題，両大学が位置する地域の保育課題の整理につながる。
- ### ④両大学に期待される，地域の保育職の輩出と地域の現職の保育者に対するリカレント教育を担う役割に応える契機

県立大学の卒業生・学部生，森田が共同研究でなければ得られないもの

保育職の深い理解者小谷先生，幼稚園（実践・保育者養成・研究が使命の園）での研修

背景

遊びを中核に置く保育の難易度の高さ、 貧弱・固定化した園文化

我が国の幼児期の教育は、遊びを中核に置いているが、遊びを中核に置く保育は、**幼児理解から保育を構想・実践する保育**であるため、**経験の浅い保育者**にとってはとくに**難易度が高い**。

また、そもそも、実際の現場には、保育者の側が何を指導するかをあらかじめ決めておける保育法である、**一斉画一的指導のもと展開される保育を行う園**か、他方には、**自由放任的な保育とトラブル解消としての消極的関与のスタイルの保育を行う園が多く存在**している。こうした現場では、**ただ遊ばせることでは、幼児教育は成り立たない**のであり、遊びの面白さは環境に関わることによって生み出されるということの理解が乏しく、子どもと応答しながら環境は構成し続けるものであるという認識には到底及ばない。

保育職の継続を支える 保育職のよさの体験，人間関係

- ・ **新任保育者の離職理由として職場の人間関係が共通する。** 職場に所属する安心感や若手を育てる雰囲気的重要性（濱名・中坪（2019）による新任保育者の離職と育成に関する先行研究の整理から）
- ・ **キャリアの中で辛さを感じた時期は20歳代，理由の第一は職場の人間関係（先輩・保護者対応），離職意志が強くなるのは30歳代，理由の第一は家庭と仕事の両立の難しさ**（胡・山口，2025）
- ・ 結婚・出産といった女性特有の**ライフステージの変化**を理由に離職した者が多く，次のライフステージの変化時に復職し，その際には，**保育職の魅力や働き甲斐を再認識**（杉山・植松（2024）による離職後に復職した保育士を対象とした調査から）
- ・ 過去に離職を考えたことのない者は**研修の機会があった，相談相手がいた**（國田・小阪，2019）

保育職のよさを体験している場合には，

一旦離職しても，条件が整えば再度，保育職に戻りやすいことが推察される若手保育者が抱える，特に人との関わりに起因する困難さや辛さは，
別の人間関係によって支えられるという体制の可能性

背景

往還型研修の必要性

「往還型研修」とは

「往還型研修には、具体的な実践の共有による対話，連続性や往還的な取組などがあり，園外での研修が一つの研修として完結するのではなく，そこで学んだ内容を基に実践をし，再度，園外での研修で検討し合う形を想定している。（大豆生田，2024）」

- ・ 保育者自身が学び，成長したいと努めることが求められる（保育教諭養成課程研究会，2020・2022）
- ・ 往還型にデザインされた保育者の現職教育や研修の実際から，研修参加者の役割への自覚が高まり，自身の成長の手応えへと結びつく（片岡・松井ら，2020）
- ・ 探究型研修，各園での実践と研修との往還を指向する往還型の具体的実践と効果については，好事例が紹介されることが必要（無藤，2020 上記 保育教諭養成課程研究会の文献にて）

講義型の研修等では保育者として不足している部分を研修によって補っていくという思考になりやすい

大目的

保育職に対するリカレント教育の在り方を検討するため、
探究型かつ日々の実践との往還型研修会の試行とその効果の考察

研修の実施

研修の実施 「サイサイホイの会」 2024年11月30日(土) 於： 埼玉大学教育学部附属幼稚園

対象： 埼玉県立大学・埼玉大学卒業の**経験1年目から6年以下**の8名

(幼稚園教諭5名・保育教諭1名・保育所保育士1名・母子生活支援施設保育士1名)

内容： 8名で輪になって**好事例を出し合う意見交換** (約100分)

保育室内の見学 (約15分)

研修の振り返り (グループインタビュー形式) の実施 2024年度末の3月

1年の保育業務を終える区切りの時期 (2025年3月24日 (月)・25日 (火), 27日 (木))

11月の研修の体験と
その後の認識の変化について
意識的に振り返る意義

グループ① 副担任**経験1年の1名** (20代前半)

② 担任または副担任業務の保育**経験2年6ヶ月・3年の計3名** (20代半ば)

(研修参加者のうちインタビュー当日体調不良のため1名が欠席したため3名での実施)

③ 担任業務**経験4年・5年・5年を経て6年目育児休業中の3名** (20代後半)

研究の目的

往還型を指向した研修会を実施し、若手保育者にとっての効果と課題を考察し、保育職に対する研修の在り方を探る。

効果の検証方法

若手研修参加者の「研修での体験」と「その後の変容」に係る語りの分析

保育職を対象とした研修の内容及び方法に関する実践的検討
－若手保育者の研修での体験とその後の変容に関する語りの分析から－

森田満理子・小谷宜路

(埼玉大学教育学部附属教育実践総合センター紀要, 2026年3月(予定))

インタビュー調査を通じたデータ収集

研究協力者：経験1年～3年の保育者4名、グループインタビュー

グループ①副担任経験1年の1名（20代前半）

3月25日 於：Zoom

②担任または副担任業務の保育経験2年6ヶ月・3年の計3名（20代半ば）

3月27日 於：埼玉大学教育学部附属幼稚園

インタビュー調査所要時間：1グループにつき約75分以内

（冒頭 15 分程度以内各自の近況報告・保育に関する情報交換等の雑談，
続いて 60分の半構造化インタビュー調査）

インタビューガイドの項目

1. 保育者としてのこれまでの自分自身の変化
2. 研修を通じた自己の変化
3. 研修での楽しさ
4. 研修への期待

司会進行：筆頭発表者，同席による進行確認と修正等：第2発表者

Table 1 インタビュー調査時の協力者4名の属性(2025年3月)

協力者	保育業務 経験年数	所属園での保育業務	所属園の 研修環境	勤務園と役職	年齢
A	1年	5歳児副担任（教育時間における5歳児3クラスの保育場面での補助を主とし、臨機応変に保育の準備業務・3歳児クラスの保育補助）	<ul style="list-style-type: none"> ・埼玉県初年次研修への参加 ・埼玉県南西部地域H市私立幼稚園・認定こども園南西部地域研修への参加 	埼玉県南西部地域H市幼保連携型認定こども園勤務保育教諭	20代前半
B	3年	4歳児担任	園内・園外研修の参加はない	埼玉県中央地域G市私立幼稚園勤務幼稚園教諭	20代半ば
C	2.5年	5歳児担任	埼玉県初年次研修への参加	埼玉県中央地域H市私立幼稚園勤務幼稚園教諭	20代半ば
D	3年	4歳児担任	埼玉県初年次研修への参加	埼玉県中央地域H市私立幼稚園勤務幼稚園教諭	20代半ば

※協力者C・Dは同一園に勤務

分析の方法

テーマティック・アナリシス法による質的分析

- ・インタビュー調査の録音データを逐語録に起こす。
- ・コーディングユニット：1行ごと，分析ユニット：協力者個人
- ・研修での体験とその後の変容についての分析にあたっては，**高嶋・岩田ら（2021）** 実践と研修の往還がもたらす意味と価値の創造過程のモデル図「**実践と研修の往還に伴う変容の過程**」と照らし，**コード・テーマを援用**するなどの修正を行う。

上述のモデル図に基づき，本研究で実施した**研修に参加した調査協力者の研修での体験とその後の変容の全体像を示すため**，本研究で生成された**テーマとその下位のサブカテゴリーとの関係を図に表す**（Figure 1）。

倫理的配慮

- 調査協力者に対し、研究・調査の趣旨、データの取り扱い、成果の公表等について、事前に書面と口頭にて説明を行い、同意書によって研究協力への承諾を得た。
- インタビュー調査への協力を同意しない場合でも、今後継続予定の研修への参加は歓迎されることを協力者に伝えた。
- 協力者への謝品として絵本を贈った。
- 埼玉県立大学の研究倫理委員会の承認を得て実施した。

結果 1. 「研修を通じた自己の変化」についての語りから捉えた「研修での体験」と「その後の変容」

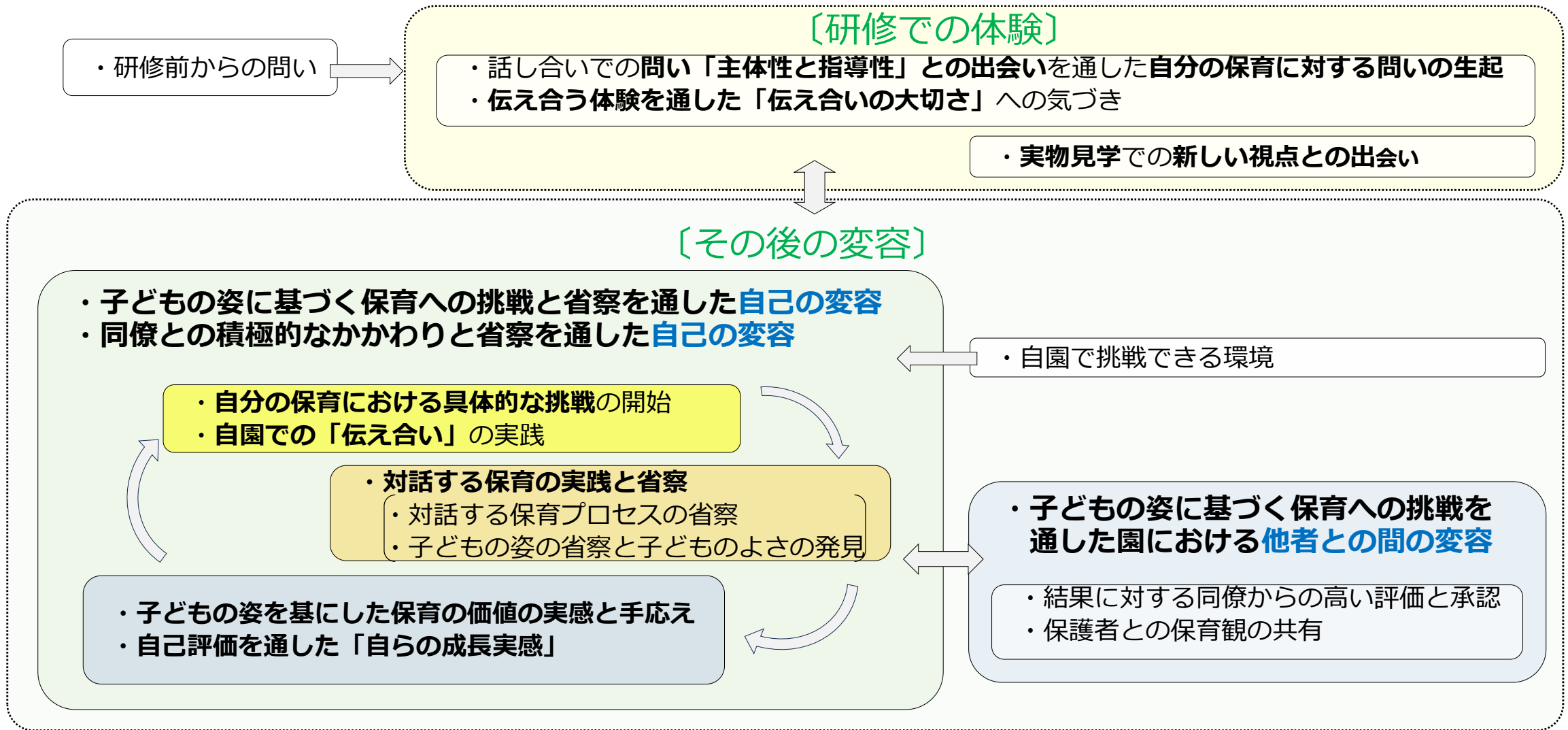


Figure 1 若手保育者の語りから捉えた「研修での体験」と「その後の変容」

Table 1 テーマ 子どもの姿に基づく保育への挑戦と省察を通じた自己の変容（サブカテゴリー：自分の保育における具体的な挑戦の開始） 語りの抜粋（協力者B,D）

- ・前の研修、遊戯会の本番のちょっと前だったので、もう完成している、そう、段階だったんです。だから、で、次の練習保育の時に練習してるのをこう見て、これは主体性なのかな、大丈夫なのかなっていうのは思って。これは、とか。あでももう完成してしまってるので、そういう感じだったので、私も。けっこうガミガミ言っちゃってる部分もあって、子どもたちに。でもそれはそこまで言わなくていいんじゃないか…（協力者D）
- ・もう難しいじゃないですか、子ども幼稚園生で踊りを綺麗にみたい…（協力者D）
- ・今から何か変えるっていうのはできないけど。まあ、保護者に見せるし、色々ピリピリしている、もっとここ揃えてとか、結構なんか…（協力者D）
- ・その、研修を経て、これはやるしかないと思ってやるからにはやってやろうと思って。（協力者B）
- ・何かが変わったわけではないですけど、子どもたちが楽しめればいいんじゃないかなっていう。私の気持ちの変化なんです。それはその研修でこういう話をして、ちょっと変化っていうかあったかなと、思いました。（協力者D）

Table 2 テーマ 子どもの姿に基づく保育への挑戦と省察を通じた自己の変容 語りの抜粋
(協力者B,D)

(サブカテゴリー：対話する保育の実践と省察 コード (サブカテゴリーの下位カテゴリー)：子どもの姿の省察と子どものよさの発見

・やっぱり子どもたちもその感情を表現できるっていうのはすごく楽しかったようで、自分たちの中にはこんな感情があったんだっていうまあ、気づいたりとかと。こんな時はこんな気持ちになっているっていうのに、それを言語化する**子どもたち、すごく生き生きとして**。うんじゃこう怒りの時はこんな顔がいいんじゃないのか、足音、どンドンさせて登場しようよと**なんかいろんなアイディアが出** (協力者B)

(サブカテゴリー：子どもの姿を基にした保育の価値の実感と手応え)

・大変だったんですけど。発表会当日 けっこうまあ物語としてまとめ予行の時にはちょっとW組さんどうしようかみたいな感じではあったんですけど。1週間でまとめますとお伝えして本番まとめられて、で、子どもたちも終わった後、すごい楽しかったって (協力者B)

・確かに見え方も大事だけど、まあみんな楽しそうにやってるし。そこは、そんなに重視というか、いいんじゃないかなって、私の中で。**うん、いや、楽しくやってればいい**っていうふうには最後1週間とかでなりました。 (協力者D)

・完成度と言ったら分からなかったんですけど。私的に大丈夫だったかなっていう不安はありながら終わって。でもまあ、**本当に楽しそうにはやってた**なっていう感じだったんで。 (協力者D)

・この研修終えて、なんか、**主体性**というか、**子どもたちの様子と照らし合わせながら組み込めたのはすごくよかった**のかなとは思いました。すごい大変でした。 (協力者B)

結果 2. 「研修での楽しさ」についての語り

① 園見学による新しい視点との出会い

サブカテゴリー（・楽しさを感じながらの見学 ・自由に質問しながらの見学
・真似できそうな工夫との出会い ・自園での具体的な活用）

② 他園・経験年数の異なる人・先輩の話を聞くことができる

③ 現場の実物からイメージして伝え合うことができる

④ 自己の認識

サブカテゴリー（・考えの固定化 ・発見）

結果 3. 「研修への期待」についての語り

① 園見学・保育者の話からの多様な新しい視点との出会い

サブカテゴリー（・多様な園の見学による刺激　・多様な保育者と話すことによる刺激）

② 先輩の話・参加者の研修後の挑戦からの新しい視点との出会い

サブカテゴリー（・先輩保育者の考え方からの刺激　・参加者の研修後の挑戦からの刺激）

③ 研修と自園での挑戦への連続による確かな学び

サブカテゴリー（・参加者や教員からの刺激を自園での具体的な挑戦につなげる　・大学と連続した太い学びにする）

④ 継続した学び合いによるモチベーションの向上

サブカテゴリー（・定期的・継続的かついろいろな経験年数で話の語り合い　・成長を通じた話題提供による貢献　・継続した学びによるモチベーションの向上）

⑤ 自園での実践に直結する具体物を通じた楽しい体験

考察 1. 学びの場を創る参加者当事者による協働：意見交換の話題を見出す

- ・ 好事例を伝え合う意見交換
- ・ **先輩の等身大の発言**「主体性と指導性」への問い
- ・ 参加者の共同思考による協働によって、**話題は「主体性と指導性」**へ、さらに**具体的な活動として発表会**に話題が焦点化
- ・ **自分たちで話題を発見する**主体的な共同作業による**意見交換の楽しさ**

太田（2019）によれば、新任保育者を対象とした対話型の園外研修の成果として、等身大の自分を表出し共感できる場を得ること、また研修において、自分の意見を言えて楽しいと思えることが研修での学びと関連している。

考察 2. 省察を促し，根源的かつ具体的な問いを生む研修

- 他園の環境にふれること，先輩や経験年数の異なる保育者と語り合いが，自分や自園の保育との対話と問いの生起につながった
- インタビューに回答することそのものが振り返り研修
- 自覚した問題の改善を自園での実践に挑んだ参加者がいた

根源的な問い
の力

子どもに基づく
保育を希求する
熱意

具体的取り組み
に移す力

考察 3. 子どもの面白さ，子どもとともに生きる面白さの実感を下支えする研修

協力者に共通して語られた

「子どもの面白さ」・「子どもと共に生きる面白さの実感」

研修の意義の1つは，

子どもの面白さ
子どもの面白さ を心から面白がる自分，
子どもの面白さ をもっと引き出したいと思う自分
を**発見し交流**させる意義，それを参加者が自園での実践に繋ぐ

子どもの面白さの
発見

子どもとともに生き
る面白さの実感

子どもと生きる幸せ

保育者冥利

今後の研修の在り方・研究の課題

- ① **協働して研修を育てる** （研修参加者・発表者らがともによりよい保育を志す同志，協働して学び合う仲間として育ち**研修を育てる努力**の積み重ね
 - ・自分たちに**必要な研修をともに発見**していく
 - ・研修の実践と省察（効果の検証）による意義ある研修の実施・1事例として
- ② 「**これまでの自分**」についての**語り**の内容の分析と考察を継続と，**若手**，**学部生を対象**とした**研修の構想と実施**
- ③ **園環境の制約のある現状の中での地道な挑戦の積み重ね**

本来あたりまえであるが，容易ではない現状の中で，あらためて，両大学を巣立った保育者が**子どもに基づく保育を希求することの尊さ**，**よりよい保育への改善に挑戦することの尊さ**をいつも胸に，まずはスタートした研修仲間と挑戦を続ける（**養成課程における教育改善**・**卒後研修の在り方の探究**）……地道に，地域レベルへのつながり・波及を目指して

おわりに

- ・ 卒業生の奮闘
子どもに基づく保育を希求することの
尊さ， よりよい保育への改善に挑戦すること
- ・ 若い保育者がもつ子どもを見る目
- ・ 子どもの面白さは引き出されるもの
- ・ かけがえのない一人一人の卒業生・保育者人生
- ・ 研修での体験内容は，
参加者それぞれに， よく聞いてみなければわからない

文献

- 大豆生田啓友「幼児教育の質向上につながる地域の研修」今後の幼児教育の教育課程，指導，評価等の在り方に関する有識者検討会(第7回)資料3，2024
- 河邊貴子「保育と遊び」青木久子・河邊貴子『幼児教育知の探究8 遊びのフォークロア』萌文書林，2015
- 國田祥子・小阪芙由美・西菜見子「保育士の離職意思と職場環境の関係」『中国学園紀要』18，2019，pp. 113-122
- 高嶋景子・岩田恵子・松山洋平・三谷大紀・大豆生田啓友「保育の質向上と保育者の成長を支える往還型研修－実践と研修の往還がもたらす新たな意味と価値の創造過程－」『保育学研究』59(3)，2021，pp. 23-34
- 土屋雅子『テーマティック・アナリシス法－インタビューデータ分析のためのコーディングの基礎』ナカニシヤ出版，2016
- 濱名潔・中坪史典「新任保育者の離職と育成をめぐる研究の動向と課題」『幼年教育研究年報』41，2019，pp. 61-74
- 胡博翔・山口美和「保育士の年代別に見た離職意志の傾向－やりがいと職務負担感に着目して－」『上越教育大学研究紀要』45，2025，pp. 379-390
- 保育教諭養成課程研究会『幼児教育を担う教員に求められる資質・能力を高める研修モデルの開発』令和3年度文部科学省委託調査研究「幼児教育の教育課題に対応した指導方法等充実調査研究」報告書，2022
- 保育教諭養成課程研究会『幼稚園教諭等のキャリアステージごと育ちと都道府県・政令市・中核市における研修の実態』令和元年度「幼児教育の教育課題に対応した指導方法等充実調査研究」報告書，2020